

マスカン語の基礎語彙 (2)*

池田 潤
(筑波大学)

ikedajun.fm@u.tsukuba.ac.jp

1 はじめに

筆者は2012年3月および11～12月にエチオピア連邦民主共和国南部諸民族州グラゲ・ゾーン (Gurage zone) のブタジラ (Butajira) でマスカン語 (Mäsqaṅ, Mesqaṅ) の調査を行った。これは二ノ宮崇司氏が2010年に開始した調査を継続したものであり、基礎語彙の収集を続けたほか、動詞の活用形の調査も行った。マスカン語の特徴、エチオピア・セム語派における位置づけ、先行研究については、二ノ宮 (2010:155-158) を参照されたい。

2 調査方法

今回の調査データは2012年3月2日から同月7日、および11月29日から12月6日にエチオピア連邦民主共和国のブタジラで得たものである。被調査者は二ノ宮 (2010) と同じAH氏である。AH氏は54歳 (調査時) の男性で、ブタジラで生まれ、言語形成期をブタジラで過ごし、現在ブタジラで生活している。マスカン語、アムハラ語、英語を話し、アムハラ語と英語の読み書きができる。

二ノ宮 (2010) に従ってアジア・アフリカ言語文化研究所

* 本調査は平成22～25年度科学研究費基盤研究 (B)「変容するエチオピア諸言語の静態と動態に関する総合的研究、ならびにデータベース構築」代表：柘植洋一 (金沢大学) (課題番号22401046) によるものである。調査の過程で被調査者のAH氏、Fekede Menuta氏 (アジス・アベバ大学博士課程) にお世話になった。

本稿で用いる略号は次の通りである。2 = 2人称、3 = 3人称、s = 単数、P = 複数、M = 男性、F = 女性、DEF = 定冠詞

(1979) の語彙リストを利用し、0600「新聞」まで収集した。単語調査に際しては、アムハラ語からの干渉を避けるため英語で単語を示し、被調査者がその単語の意味を正しく理解していることを確認した上で、対応するマスカン語を収録した。

3 基礎語彙

二ノ宮 (2010) では1番から100番までの基礎語彙を音声表記で示したが、本稿では427番から500番までの形容詞を Leslau (1979) の音素表記に従って提示する。

表1：マスカン語の基礎語彙500中の形容詞¹

No.	Japanese	English	Mäsqañ
0427	大きい	big	wädäl
0428	小さい	little	k ^w ant'älo (for inanimate) ik ^y k ^y im, k'al (for animate and inanimate)
0429	高い	high	gälif ('tall')
0430	低い	low	ač'č'ər (Am.; 'short') gurmä (rare)
0431	太った	fat	ğänğən (for human) wädäl (= 0427; for non-human)
0432	痩せた	lean	k'äč'č'ən (Am.)
0433	厚い	thick	ğänğən (= 0431)
0434	薄い	thin	k'äč'č'ən (= 0432)
0435	重い	heavy	yərāz
0436	軽い	light	k'allal (Am.)
0437	強い	strong	t'änkara (Am.) k'omarä (for animals)
0438	弱い	weak	k ^y əč'm ^w aññä
0439	痛い	painful	wäggem ak'em
0440	固い	hard	t'änkara (= 0437)
0441	軟らかい	soft	läslassa (Am.) ekšäš

¹ 資料的価値を高めるため、表は (Japanese の欄を除き) 英語で作成した。なお、Am.は 'as in Amharic' を表す。

0442	甘い	sweet	yətām
0443	塩辛い	salty	-
0444	辛い	spicy, hot	-
	<i>Japanese</i>	<i>English</i>	<i>Mäsqaṅ</i>
0445	苦い	bitter	yəmārr
0446	速い	fast	yəfāt't'ān ('fast') cf. bāgziyā ('early')
0447	遅い	slow	-
0448	丸い	round	k'əbb
0449	するどい	sharp	buli (for knives, etc.)
0450	にぶい	dull	yədnāzzāzā (for knives, etc.) yəfāzzāzā (for human)
0451	なめらかな	smooth	läslassa (= 0441)
0452	まっすぐな	straight	k'āt't'əta
0453	きれいな	pretty	mälkamma ('nice looking') cf. nət'u ('clean')
0454	汚い	dirty	k'ošāšā (Am.)
0455	長い	long	gällif
0456	短い	brief	ač'č'ər (Am.)
0457	遠い	distant	ärük'
0458	近い	near	k'urb
0459	広い	broad	bättät
0460	狭い	narrow	t'uk' t'ub
0461	熱い	hot	yəm ^w ak'ä fula
0462	寒い	cold	yək'zäk'k'äzä
0463	暖かい	warm	yəm ^w ak'ä (= 0461)
0464	冷たい	cold	yək'zäk'k'äzä
0465	若い	young	arde
0466	年をとった	old	balik' (for human) gurz
0467	新しい	new	gädär
0468	古い	old	gurz
0469	常に	always	ənnəmge

0470	一杯	full	mula
0471	たくさん	many	bužä
0472	少ない	few	-
	<i>Japanese</i>	<i>English</i>	<i>Mäsqañ</i>
0473	みな	all	ənnəm
0474	明るい	bright	kufta ('open and bright')
0475	暗い	dark	č'alläma (Am.)
0476	光	light	bərhan (Am.)
0477	白い	white	näč'č'ä
0478	黒い	black	t'ək'ur (Am.)
0479	赤い	red	bišša
0480	青い	blue	-
0481	緑	green	-
0482	黄色	yellow	bəč'a (Am.)
0484	美しい	beautiful	mälkamma (0453)
0485	いい	good	fäyya t'uri
0486	悪い	worng	wudo
0487	正しい	right	lökk (Am.)
0488	同じ	same	k'una aynät ('the same kind')
0489	違った	different	yətləyayä

4 形容詞の語型

表 1 の単語からマスカン語形容詞の語型として抽出できるものはない²。これはおそらくデータが少ないためで、1000 番までの基礎語彙を収集した段階で再度検討してみたい。

形容詞に特徴的な接辞として、下記の接尾辞と接頭辞がある。

- (1) 接尾辞 -am(m)a : mälkamma (0453)³

² wädäl (0427), bättät (0459), gädär (0467) から qät(t)al 型が抽出可能ではあるが、一般性の高いパターンであるため形容詞の語型とは考えにくい。なお、アムハラ語の形容詞語型としては、qättal 型 (0436 番の k'allal) や qət(t)ul 型 (0478 番の t'ək'ur) などが確認される。アムハラ語形容詞の語型については、Leslau (2000:48-49) 参照。

³ malk は 'appearance' を表す名詞である。この語尾によって派生され

- (2) 接尾辞 -aňña : k'ʷəč'mʷaňña (0438)⁴
 (3) 接頭辞 yə- : yərāz (0435), yətām (0442), yəmārr (0445), yədnāzzāzā, yəfāzzāzā (0450), yəmʷak'ä (0461), yək'zäk'k'äzā (0462), yəfāt't'an (0446), yətləyayä (0489)⁵

また、一部の形容詞に反復が見られる点も特筆に値する。これらについては擬音語・擬態語の可能性も考えられる。

- (4) 完全反復 : ġəŋġən (0431)
 (5) 部分反復 : lässassa (0441), yədnāzzāzā, yəfāzzāzā (0450), k'ošāšā (0454), yək'zäk'k'äzā (0462)

5 形容詞の用法

下の例が示す通り、形容詞が名詞を修飾する場合、形容詞＋名詞という語順をとる。この場合、形容詞には性数による語形変化がない。

- (6) wädäl säb
 big man
 “a big man”
 (7) wädäl säbočč
 big men
 “big men”
 (8) wädäl məšt
 big woman
 “a big woman”
 (9) wädäl ənšitta
 big women
 “big women”

る形容詞としては、ほかに äžamma ‘handy’ (cf. äž ‘hand’), wožamma ‘うそつき’ (cf. wožä ‘to tell a lie’) などがある。なお、č'alläma (0475) にも接尾辞 -am(m)a が含まれているように見えるが、この語はセム語に広く見られる語根 √šlm ‘be dark’ から派生したものであり、m は語根の一部である。

⁴ Leslau (2000:48) によると、アムハラ語にも類似の接辞 -aňña がある。

⁵ yə- は所有を表す接頭辞で、アムハラ語の yä- に相当する。

形容詞＋名詞という名詞句に定冠詞を付ける場合、定冠詞は形容詞に付加される。

- (10) wädäli mäs⁶
big-DEF man
“the big man”
- (11) wädäli sābočč
big-DEF men
“the big men”
- (12) wädäli məšt
big-DEF woman
“the big woman”
- (13) wädäli ənšitta
big-DEF women
“the big women”

それに対し、形容詞を述語として用いる場合、名詞（主語）＋形容詞（述語）という語順をとる。例(14)～(17)が示すように、定冠詞は名詞に付加され、形容詞は主語の人称に応じて変化する。

- (14) mən̄si wädälu
man-DEF big-3MS
“The man is big.”
- (15) sābočči wädälønno
men-DEF big-3MP
“The men are big.”
- (16) məšti wädäliya
woman-DEF big-3FS
“The woman is big.”
- (17) ənšittayi wädälønnäma
women-DEF big-3FP
“The women are big.”

⁶ mäs は既知の男性を表す。ただし、mäsöčč という複数形は存在しないため、複数形では未知と既知の違いは中和される。

wädäl「大きい」を例に述語形容詞の人称変化パラダイムを示すと、次のようになる。

表 2：述語形容詞の人称変化パラダイム⁷

人称・性・数	語形
1S	wädälönhu
2SM	wädälönhä
2SF	wädälөнši
3SM	wädälu
3SF	wädäliya
1P	wädälönnä
2PM	wädälönhu
2PF	wädälөнhma
3PM	wädälөнno
3PF	wädälönnäma

6 その他の所見

一語について、無声音（放出音）を有声音（非放出音）に置き換えることで形容詞の程度が変わることが確認された。

(18) yək'zäk'k'äzä 'cold'

yəgzäggäzä 'too cold'

被調査者に確認したところ、例えば yəm^wak'ä 'hot' を yəm^wagä 'too hot' に変化させることはできないとのことであり、上記の置き換えに生産性はないようである。

「辛い」や「塩辛い」という形容詞が存在しないのは食文化の影響であろう。おそらくブタジラでは「辛い」食べ物が無標であり、とくに「辛い」という形容詞を必要としないのだと考えられる。また、asso “salt” という名詞はあるが、それに接尾辞 -am(m)a を付加すると「塩辛い」ではなく「おいしい」という語となる事実も興味深い。

「遅い」という形容詞はないが、aräfädäm「遅れる」という動

⁷ 1s と 2PM とが同形になる。3SM と 3SF 以外に見られる -ən- は鼻音化した ə の可能性もある。

詞や *dəgg* ‘slowly’ という副詞は存在する。

色彩語彙は少なく、青と緑を表す語がないほか、黒と黄色がアムハラ語から借用されている点も特筆に値する。

7 おわりに

本稿では、427 番から 500 番までの形容詞を Leslau (1979) の音素表記に従って提示し、形容詞の語型や用法について考察した。マスカン語形容詞の語型として抽出できるものはなかったが、形容詞に特徴的な接尾辞と接頭辞を取り出すことができた。また、形容詞は名詞を修飾する場合は語形変化をしないが、述語として用いる場合は主語の人称に応じて変化することも分かった。さらに、味や色彩に関する語彙に関して興味深い事実も観察された。

今回の調査で得られたデータのうち 0275「見る」から 0425「いる」までの動詞については「マスカン語の基礎語彙 (3)」として次号で提示し、その語形変化を分析したい。

【参考文献】

- アジア・アフリカ言語文化研究所 (編) (1979)『アジア・アフリカ言語調査票』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
- Leslau, Wolf (1979) *Etymological dictionary of Gurage (Ethiopic): Individual dictionaries. vol.1.* Wiesbaden: Otto Harrassowitz.
- Leslau, Wolf (2000) *Introductory grammar of Amharic.* Wiesbaden: Otto Harrassowitz.
- 二ノ宮崇司「マスカン語の基礎語彙 (1)」乾秀行・柘植洋一(編)『科学研究費補助金報告書(Cushitic-Omotc Studies 2010)』 155-165.